

## 第5学年 社会科学習指導案

### 1 単元名 これからの食料生産とわたしたち（東京書籍5年上）

### 2 単元について

- 本単元は、学習指導要領第5学年の内容（2）アの「様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること。」を調べ、「それらは、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深い関わりをもって営まれていることを考えるようにする」ことを受けて設定したものである。我が国の食料生産の現状を把握し、我が国の食料生産に関わる問題点を見だし、今後の我が国の食料生産の在り方について自分の考えをもつことをねらいとしている。

我が国の食料生産の現状は、国民の食生活の変化、国産農産物の需要の減少、耕地面積や農家や漁家の減少、食の安全性に対する不安など、様々な問題を抱えている。その中でも食料自給率の低下は、TPP協定（環太平洋経済連携協定）交渉が大筋合意された現在、更に危惧されている問題である。現在の日本の食料自給率は、39%（カロリーベース）であり、40年前と比較すると3分の2に減少している。今後、TPP協定が発行されるとさらに低下することも考えられる。しかし、国内の食料生産だけで国民の食生活を維持することは難しく、食生活は輸入によって豊かなものとなっているのが現状である。

こうした状況を理解した上で、これから日本はどうしていけばよいのかを児童に考え、公正に判断し、表現させることは、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う上で非常に重要であると考えます。

- 本学級の児童は、同居している家族に農業をしている人がいる児童が21人中15人（約71%）、同居はしていないが祖父母や親戚に農業をしている人がいる児童が18人（約86%）おり、同居を問わず農業をしている家族や親戚がいる児童になると20人（約95%）と生産者側として農業と密接に関わっている。そのため、これまでに学習した米づくりや水産業の学習では、関心が高く、生産者の努力や工夫について身近に感じ、意欲的に学習に取り組むことができている。しかし、日本が抱えている食料自給率の問題や自分たちの食生活が輸入によって支えられているという食料生産の現状についてはほとんど知らない。また、社会科の学習において討論を行った経験がなく、自分の考えを表現したり考えを深め合ったりしていくことに苦手意識をもっている児童が多い。

学習状況調査の結果を基にした実態調査の結果を見ると、考えの根拠となる必要な情報を正しく読み取ること、複数の情報を関連付けて考えたり、思考過程を総合して説明したりすることに課題が見られる児童が数名ずついた。そのため、児童が資料を正しく読み取れるような手立てや児童が段階的に情報を関連付けて思考を深めていけるような手立てが必要であると考えます。また、「活用」に関する問題においては、児童の思考する対象が身近な立場から似た立場、違う立場へと広がる傾向があるということが分かった。そこで、授業では児童の身近な立場から段階的に様々な立場に立たせ、社会的事象を多面的・多角的に考えることができるような手立てが必要であると考えます。

- 指導に当たっては、「学習問題をつかむ」過程で、まず、写真を提示し、身の回りには外国で生産されているものが多くあることに気付かせ、国産と外国産の割合を予想させながら、食料自給率の意味を理解させる。その際、日本と主な国の食料自給率のグラフから日本は他の国々と比較すると食料自給率が低いということに気付かせ、今の日本はたくさんの食料が輸入されていることをおさえる。さらに、「食料自給率が低いことはよいことか？」と児童に問いかけることで、輸入が多くなっている現状に対しての予想や疑問を出させていく。このようにして、児童の予想や疑問を基に、学習問題Ⅰ「日本が食料をたくさん輸入することには、だれにどんなえいきょうがあるのだろう」を設定する。また、児童から学習問題Ⅰに対する予想を引き出していくことで、問いをもたせながら、単元の学習計画を立てていくようにする。

「調べる」過程では、学習問題Ⅰ設定のときに出された問いを中心に調べ活動を行わせ、消費者や生産者、販売者など立場の違いから食生活の変化や食の安全性、環境との関わりなど食料を輸入することによる影響に気付かせていく。その際、常に学習問題を意識しながら調べ学習を進められるように、学習問題Ⅰに対しての自分の考えを記述する時間を毎時の終末に設定する。これにより、調べた事実同士や食料生産に携わっている人々の工夫や努力と関連付けて考えさせるようにしていくことで、日本の食料生産の現状についての理解を深めさせる。

「考え・まとめる」過程では、まず、学習問題Ⅰに対して、様々な立場ごとにどのような影響があるのかを表にしてまとめさせる。次に、輸入ができなくなる恐れのある問題や日本の農家の現状から、学習問題Ⅱ「国内生産を高めるためには、どうすればいいのだろう。」を導き出させる。その後、既習の事実を根拠にして国内生産を高めるための解決策を見いださせ、学習問題Ⅱの解決に向けて考え方を学ばせるために、日本の農家が困っていること（求めていること）の典型的な事例として解決策を1つに絞り込んで討論を通して考えさせるようにする。討論に向けての調べ学習では、「国内生産を高めるためには、農業をする人を増やすべきである」という論題で賛成派と反対派とに分け、質問や反論にもしっかりと対応できるようにメリットやデメリットを調べさせたりすることで、社会的事象を多面的・多角的に見て考えることができるようにしたい。その際、反対派は、他の解決策と比較した考えから意見をもたせるようにする。討論では、これからの日本の食料生産の在り方について、意見を交流させることで、自分が重視する解決策とその理由を考えさせていく。児童がどの解決策を重視していくのか考える際、根拠をもって解決策を評価し判断できるように、3つの観点（実現可能性、効果、即効性）を与え、考える手掛かりとさせる。その際、チェックシートを用い、自分の考えを可視化させることで、児童が自他の考えを整理し、比較、検討できるようにする。

単元終末では、これまでの学習を総合的に判断させ、JAの営農センターへの提案文の作成を行わせ、提案し意見を頂くことで、児童が社会とのつながりを実感したり、新たな課題を発見したりすることをねらう。また、食料の輸入に関する問題については、TPP協定に対して日本の政策は日々変化していくことが考えられる。そこで、新聞記事などを紹介することで、今後も食料生産について考える機会をつくり、児童が課題意識をもち、学び続けていけるようにしたい。

### 3 単元の目標

我が国の食料生産の現状や問題について調べ、これからの日本の食料生産の在り方について考えさせることを通して、様々な食料生産が国民の食生活を支えていること理解させ、現在の生活を見直したりこれからどうするべきかを考えたりすることができるようにする。

### 4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	観察・資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の様々な食料生産の様子について関心をもち、意欲的に調べている。</li> <li>国民生活を支えている我が国の食料生産の発展やこれからの食料生産の在り方について考えようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の様々な食料生産の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。</li> <li>調べたことと食料自給率や食料輸入に関する社会的な問題を相互に関連付け、我が国のこれからの食料生産の在り方について考え適切に表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図や統計などの資料を活用して、我が国の食料生産について必要な情報を集め、読み取っている。</li> <li>調べたことを整理して図や文章にまとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な食料生産が国民の食生活を支えていることや食料の中には外国から輸入しているものがあることを理解している。</li> <li>これからの食料生産には、食料自給率の低下や食の安全性、環境との関わりなど、様々な社会的な問題があることを理解している。</li> </ul>

5 単元計画（全8時間 本時1/8）

過程	主な学習活動	教師の働き掛け(○)	評価(・)評価の観点【】	時配
学習問題をつかむ	○食料自給率のグラフや資料から日本の食料の輸入に関心をもち、予想や疑問を基に学習問題Ⅰを設定し、調べる計画を立てる。	○資料の情報を少しずつ提示し、食料自給率の意味が理解できるようにする。 ○食料自給率が低いと感じる児童の予想を基に、日本はたくさんの食料を輸入していることが良いことなのかを問い、児童の予想や疑問を引き出す。 ○児童から出た予想や疑問を取り上げ、学習問題の設定につなげていく。	・食料の輸入について学習問題や予想、学習計画を考え、発言したり、ワークシートに記述したりしている。 【思】	1 本時 (1/8)
	日本が食料をたくさん輸入することには、だれにどんなえいきょうがあるのだろう。 (学習問題Ⅰ)			
調べる	○食生活の変化と食料生産の現状について調べる。	○学習問題Ⅰの予想を基に、資料から食生活の変化に気付かせ、輸入量の増加、生産者の減少、土地利用の変化などに関連付けて食料生産の現状について考えさせる。 ○学習問題Ⅰと調べたこととを関連付けて考えることができるように、学習問題に対する自分の考えを書く時間を設定する。	・資料集や統計グラフを活用して、我が国の食料生産について必要な情報を集め、読み取っている。 【技】  ・食料の中には外国から輸入しているものが国民の食生活を支えていることを理解している。 【知】	1
	○食の安全性や環境との関わりについて調べる。	○食の安心・安全に関する新聞記事を基に、食の安全性や環境との関わりについて関心を高め、どのような取組が行われているのかを捉えさせる。 ○学習問題Ⅰと調べたこととを関連付けて考えることができるように、学習問題に対する自分の考えを書く時間を設定する。	・我が国の様々な食料生産の様子について関心をもち、意欲的に調べている。 【関】  ・日本の食料生産には、食の安全性や環境との関わりなど、様々な社会的な問題があることを理解している。 【知】	1

考え・まとめる	<p>○学習問題Ⅰについて自分の考えをまとめる。</p> <p>○これからの日本の食料生産の在り方について考え、学習問題Ⅱを設定する。</p>	<p>○輸入が進んでいくことによるメリット・デメリットを整理させ、これからの食料生産はどうすべきか考えさせる。</p> <p>○学習問題Ⅰのまとめから危惧されることとして輸入が止まる可能性があるという資料を提示し、児童に国内生産を高めることへ課題意識をもたせ、学習問題Ⅱを設定する。</p>	<p>・調べたことを整理して図や文章にまとめている。【技】</p> <p>・調べたことを基にして、食料の輸入の影響について、自分なりの考えをもつことができる。【思】</p>	1
	国内生産を高めるためには、どうすればいいのだろう。（学習問題Ⅱ）			
	<p>○国内生産を高めるための解決策を考える。</p> <p>【予想される解決策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業をする人を増やす。</li> <li>・作る種類を増やす。</li> <li>・和食中心の食生活にする。</li> <li>・農業の会社を作る。など</li> </ul>	<p>○国内生産を高めるための解決策として、これまでに学習した内容や参考資料を基にして解決策を考えさせる。</p>	<p>・国内生産を高めるための解決策について、これまでに学習した内容や資料を基にして自分なりの考えを適切に表現している。【思】</p>	1
	<p>○国内生産を高めるためには、農業をする人を増やすべきに賛成か反対か自分の立場を決定し、討論に必要な資料を調べる。</p>	<p>○解決策を評価する考え方を学ばせるために、事例として、「農業をする人を増やす」を取り上げる。</p> <p>○解決策ごとに3つの観点（実現可能性、効果、即効性）で評価をさせ、比較検討させることで自分の立場を決定させる。</p>	<p>・国民生活を支えている我が国の食料生産の発展やこれからの食料生産の在り方について考えようとしている。【関】</p> <p>・国内生産を高めるための解決策について、必要な情報を集め、調べたことを整理し、表にまとめている。【技】</p>	1 + 課外
	<p>○討論をする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">論題 国内生産を高めるためには、農業をする人を増やすべきである。</p>	<p>○調べた事実を根拠として考えを述べられるように準備をさせておく。</p> <p>○討論は手順を確認しながら進めていく。</p>	<p>・討論を通して、我が国のこれからの食料生産の在り方について考え、自分の考えを適切に表現している。【思】</p>	1
	<p>○これからの日本の食料生産の在り方について、JAに提案文を書く。</p> <p>○JAからのコメントを基に自分の考えを振り返る。</p>	<p>○自分が提案する解決策を決めさせ、その根拠となる考えも記述させる。</p> <p>○コメントを基に、自分の考えを振り返らせる。</p>	<p>・これからの日本の食料生産の在り方について、自分の考えを総合的に整理し、適切に表現している。【思】</p>	1 + 課外

## 6 本時の目標

写真やグラフなど資料からの予想や疑問に思うことを出し合いながら、学習問題Ⅰを考え、立場を意識しながら食料を輸入することによる影響を予想することができるようにする。

（社会的な思考・判断・表現）

## 7 展開(全8時間 本時1/8)

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)と評価【】
1 これまでの学習を振り返り、めあてを確認する。  〈学級全体〉	○これまでに学習した米づくりや水産業を振り返り、生産者の努力や工夫により様々な食料が生産されていることを想起させ、「なぜ生産しているのか」を問うことで、わたしたちの食生活との関連に目を向けさせ、本単元の学習へとつなげる。
めあて 学習問題をつくり、学習の計画を立てよう。	
2 日本の食料自給率について予想する活動を通して、食料自給率の意味について知る。  〈学級全体〉	○算数で割合をまだ習っていないので、「日本で食べられている食料を100とすると、国産の食料はどれくらいあるのだろう」と問いかけ、図やイラストを使って予想させることで、視覚的に食料自給率の意味を理解できるようにする。 ○予想しやすいように、学習した日本の米の自給率97%を示して考えさせる。
3 日本と主な国の食料自給率のグラフから、日本の食料生産の現状を考える。  〈個人〉 〈学級全体〉  ・以前と比べると日本の食料自給率は下がっている。	○日本の食料自給率が39%であることを伝え、児童の予想と比べさせることで、低いという驚きや疑問の反応を基に残りの61%はどうしているのかを予想させる。 ○スーパーマーケットの外国産の商品表示の写真を複数提示し、身の回りにはたくさんの外国産の商品が販売されていることに気付かせることで、日本は食料をたくさん輸入していることを押さえる。 ○「日本の生産者（農家や漁家）は工夫や努力をしているのになぜだろう」や「どうしてこんな現状だと思うか」などと問い返すことで、消費者の食生活の変化に気付かせることで、学習活動4へ導く。
4 日本の食料自給率が低い（食料をたくさん輸入している）ことは、「良いこと」なのか、「こまること」なのかを立場を意識しながら予想する。  〈学級全体〉  ・消費者の立場 ・生産者の立場 ・販売者の立場	○日本の食料自給率の現状は、「良いこと」なのか、「こまること」なのかを問いかけ、児童の反応から、「良いこと」と「こまること」（どんな影響があるのか）を予想させる。 ○児童の発言に対して「誰にとって？」と問い返すことで、消費者、生産者、販売者の立場を導き出す。 ○児童が外国産の食料についての発言した際に、外国産のイメージを問いかける。これから、価格の安さや安全性への心配などを取り上げるが、根拠について問い返すことで、調べて確かめようとする課題意識をもた

<p>5 学習問題 I を設定する。                  〈学級全体〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>日本が食料をたくさん輸入することには、だれにどんなえいきょうがあるのだろうか。</p> </div> <p>6 学習問題 I に対する予想を出し合い、調べる計画を立てる。                  〈個人・学級全体〉</p> <p><b>【期待される児童の予想】</b></p> <p><u>消費者の立場</u></p> <p>○食料品を安い価格で買える？                  ○たくさんの種類を食べられる？                  ○たくさんの量を食べられる？                  △食料が安全かどうか心配？</p> <p><u>生産者の立場</u></p> <p>△日本のものが売れなくなってしまう？</p> <p><u>販売者の立場</u></p> <p>○商品の品ぞろえが良くなる？                  △安心して買ってもらえるか心配？など</p>	<p>せるようにし、学習問題 I の設定へと導く。</p> <p>○本時の学習で出てきた日本の食料生産の現状（輸入が多い）、立場、影響などに着目させ、予想や疑問を生かして学習問題 I を設定する。</p> <p>○これからの学習に対する見通しをもたせるために、学習問題 I に対する予想を立場（だれに）と（どんな）影響（があるか）を考えさせる。 <b>【評価】</b></p> <p>○考えた予想の立場の数を確認し、複数の立場から予想することができる児童を称賛することで、評価への意欲付けをする。</p> <p>○児童の予想を立場ごとに整理して板書していく。</p> <p>○児童の予想に○（いいこと）や△（こまること）を付けることで、どんな影響なのかを確認しやすくする。</p> <p>○予想を確かめるために、児童の予想を記した板書に「？」を付け、調べることを明らかにし、次時の学習で調べることとして、「食生活の変化」と「日本の食料生産の現状」を取り上げることで、これからの学習で確認する必要性を示し、調べる意欲付けを行う。</p>
--	---

8 本時の評価

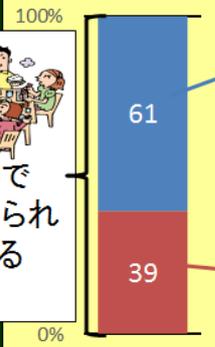
評価規準	写真やグラフなど資料からの予想や疑問に思うことを出し合いながら、学習問題 I を考え、立場を意識しながら食料を輸入することによる影響を予想することができるか。 <b>【社会的な思考・判断・表現】</b>		
判断する目安 (判定基準)	十分満足できる状況 (A)	おおむね満足できる状況 (B)	努力を要する状況 (C)
	学習問題 I について、複数の立場から食料を輸入することによる影響を予想している。	学習問題 I について、1つの立場から食料を輸入することによる影響を予想している。	(B)に達していない記述
→(B), (C)と判断した児童への支援		→他の立場でも影響を予想してみるように声掛けをする。	→輸入する理由を確認し、消費者の立場から影響を予想してみるように声掛けをする。
評価方法	ワークシートの記述、発言の内容		

9 本時の板書計画

**めあて**  
学習問題をつくり、学習の見通しを立てよう。

 **農家・漁師**

**日本の食料自給率・・・39%は低い  
食生活の変化？**



100%  
0%

61  
39

**日本は食料をたくさん輸入している**

 **外国産**

 **日本産**

**日本で食べられている食料**

**食料をたくさん輸入することは「いいこと？」「こまること？」**

**学習問題**  
日本が食料をたくさん輸入することには、だれにどんなえいきょうがあるのだろう。

**消費者**  わたしたち

- 買い物を安くすませることができる？
- たくさんの種類が食べられる？
- たくさんの量が食べられる？
- ▲安全かどうか心配？

**生産者**  農家 漁師

- ▲日本のものが売れなくなる？

**販売者**  お店の人

- 商品の品ぞろえが良くなる？
- ▲安心して買ってもらえるのか心配？